



平成 18 年 10 月 13 日

各 位

会社名 株式会社ティー・ワイ・オー  
代表者名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者  
吉田 博昭  
( J A S D A Q ・ コード番号 : 4358 )  
問合せ先  
役職・氏名 取締役兼グループ執行役員 飯田 浩一  
電話 03-5434-1586

平成 18 年 9 月期通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 9 月期（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）の業績予想について、平成 18 年 5 月 19 日付「平成 18 年 9 月期中間決算短信（連結）」にて発表致しました業績予想を下記のとおり修正致します。

なお、本開示における決算数値等は監査法人による監査前数値であるため、監査後決算数値等とは必ずしも一致致しません。

記

1. 平成 18 年 9 月期 連結業績予想の修正等

(1) 通期（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	22,000	1,550	700
今回修正（B）	21,100	1,120	400
増減額（B－A）	△900	△430	△300
増減率（％）	△4.1％	△27.7％	△42.9％

(2) 修正理由

当連結会計期間におけるグループ経営は、事業戦略である独自の「マルチブランド戦略」（当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ制作会社をグループ化する戦略）を実行し、高収益をあげる会社の新規設立や、M&Aによりグループ規模拡大を図る一方で、低収益かつ利益改善の見込めない子会社の整理も積極的に実施してまいりました。

当連結会計期間は、期首に発表した業績予想値を達成することが出来ない見込みとなり

ました。当社グループは過去、4～5年に一度の「踊り場」的な時期を経験しておりますが、その都度抜本的な改善施策を図ることで成長を続けてまいりました。当連結会計期間においても、下記に記載のとおり課題および問題点は既に顕在化しており、それらを速やかに解決することによって更なる成長を続ける所存です。

売上高につきましては、グループ各社の貢献によって前年同期比約12億60百万円（同6.4%）増と推移する見込みです。しかしながら、平成17年12月の株式会社ジェンコの売却に伴い控除する、期首に見込んでいた約15億円の売上高を補うには至らず、その結果、期首予想比約9億円（同4.1%）減となる見込みであります。

経常利益につきましては、グループ各社が目標達成に向けて取り組んだ結果、当社グループ31社（平成18年9月末日現在）のうち25社が達成致しました。しかしながら、ストラテジア株式会社、株式会社ネクシスコミュニケーションズ、株式会社朱雀、デジタルアーカイブ・ジャパン株式会社、株式会社5 p b. および株式会社ビルドアップの6社の目標未達成が利益を減少させました。ストラテジア株式会社、株式会社ネクシスコミュニケーションズ、株式会社朱雀、デジタルアーカイブ・ジャパン株式会社の4社につきましては、売上未達成が主要因で合計約2億80百万円の利益減少となりました。株式会社5 p b. は利益管理の未達成により約40百万円の利益減少となりました。当連結会計期間のM&Aでグループ化した株式会社ビルドアップは、参入後の事後整理・再構築が期末までかかり、約60百万円の利益減少となりました。目標達成した25社によって上記6社の利益減少分を補完するべく、最後まで取り組んでおりましたが、上記分を補完するには至らず、前年同期比約88百万円（同7.3%）減、期首予想比約4億30百万円（同27.7%）減となる見込みです。

以上6社につきましては、利益率改善プログラムの遅れを取り戻すべく、平成19年9月期中の目標達成をめざし、営業強化・利益管理強化・利益体制の早期構築といった必要な経営施策を既に実施しております。

当期純利益につきましては、株式会社ジェンコのMBO（マネジメント・バイ・アウト）により約1億10百万円の売却益を得ましたが、前述の理由による利益減少の影響により、前年同期比約89百万円（18.2%）減、期首予想比約3億円（同42.9%）減となる見込みです。

尚、単独業績予想につきましては、修正はございません。

(3) ご参考：前期の実績（平成16年10月1日～平成17年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期（10/1～3/31）	9,176	694	266
通期（10/1～9/30）	19,839	1,207	489

(4) ご参考：中期的経営目標

当連結会計期間は一種の「踊り場」となりましたが、当社グループと致しましては全体として補完し合う「しくみ」はグループ全社の経営者に着実に浸透しており、「クリエイティブ・ビジネス都市」（クリエイティブの仕事を会社の利益にする仕組み）に参加した企業の継続的な拡大・成長により、更なる発展に自信を持っております。

当社はこれまでに中期的経営目標として2010年に売上高400億円を掲げておりますが、現状の当社業績を鑑み、先に掲げた目標を来期以降、以下のように達成していく計画です。

(億円)

期別	第25期 (平成18年9月期)	第26期 (平成19年9月期)	第27期 (平成20年9月期)	第28期 (平成21年9月期)	第29期 (平成22年9月期)
売上高	211	240	290	345	400
経常利益	11.2	12.2	16.8	22.8	30.0
経常利益率	5.3%	5.1%	5.8%	6.6%	7.5%

このためには、特に売上高－経常利益率の確実な向上が必要です。当社は今上半期中にグループ全社に対して、業種別の「基準値」を定め、その達成に経営努力を集中せしめる計画であります。

上記、中期的経営目標の達成に向け、今後より一層の事業展開と収益管理を行っていく所存でございます。特に強化する事業領域として、インタラクティブ・コンテンツ（WEB）制作とエンタテインメントコンテンツ制作の分野と見据え、引き続き積極的な会社の新規設立や、M&Aを推進致します。

以 上